

第6回（仮称）仙台市教育構想2026検討委員会議事録

日 時	令和8年1月27日（火） 18:00～19:16
会 場	仙台市役所上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
出席委員	野口和人委員長、本岡愛実副委員長、秋山一郎委員、遠藤克宏委員、大曾根学委員、嘉藤明美委員、幾世橋広子委員、越坂由美委員、菅澤美香子委員、菅原弘一委員、堤祐子委員、松田道雄委員、三浦和美委員、若島孔文委員（14名）
欠席委員	なし
事務局	副教育長、教育局次長、次長兼総務企画部長、次長兼学校教育推進部長、教育人事部参事、学校教育支援部長、学校教育支援部参事、生涯学習部長、参事兼総務課長、企画調整係長
担当課	教育局総務企画部総務課
次 第	1 開会 2 議事 （1）仙台市教育構想2026中間案に関する意見募集（パブリックコメント）の実施結果について （2）仙台市教育構想2026最終案について 3 閉会
配付資料	1 仙台市教育構想2026中間案に関する意見募集（パブリックコメント）の実施結果の概要 2 仙台市教育構想2026中間案に関する意見の概要と本市教育委員会の考え方について 3 仙台市教育構想2026最終案における修正箇所一覧 4 仙台市教育構想2026最終案

1. 開会

2. 議事

○議長（野口委員長。以下「議長」） 皆さん、こんばんは。

それでは、まずこの会議についてですが、公開となっております。議事録作成のために議事内容を録音しておりますので、その点ご了承いただければと思います。

なお、議事録の確認につきましては、議事録署名を委員にお願いしておりますが、今回は越坂委員にお願いしたいと思いますが、よろしいですか。よろしくお願ひいたします。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議事は2つございますけれども、議題の1、仙台市教育構想2026中間案に関する意見募集（パブリックコメント）の実施結果についてと議題の2つ目、仙台市教育構想2026最終案について、この2つですけれども、関連するところが非常に多いものですから、両方まとめた形でご報告いただこうかと考えてございます。それでよろしいでしょうか。

－異議なし－

それでは、そのような形で事務局よりご説明をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

○事務局（総務課長）

資料1、資料3、資料4に基づき説明

○議長 ありがとうございます。

ただいまご説明いただきましたパブリックコメントでいただいたご意見ですとか、令和8年度の事業実施予定を踏まえて修正をいただいたというところがございますけれども、先ほども申し上げましたとおり、本検討委員会は本日で最後となりますので、後ほど委員の皆様から一言ずつご感想いただければと考えているところではございますが、最初に、パブリックコメントの実施結果ですとか、最終案全般につきましてご意見やご質問等ございましたら、挙手をお願いできればと思います。よろしくお願ひいたします。

○遠藤委員 パブリックコメントのこれだけたくさんのご意見の中でも、特に登校に不安や悩みを抱える児童生徒、保護者への支援ということに関して、これだけ多くの切実なご意見をいただけたのは、貴重な機会だったのではないかなと感じました。学校現場を預かる立場として感じたことは、やはりこうした意見の後ろに本当にたくさん不安や悩みを抱える子どもや保護者がいることと、また、こうした声を上げられずに悩んでいる子ども、保護者がいることを改めて感じたところでございます。

そうした意味で、25ページに、先ほどの説明にもありましたように取組方針が書かれ

ていますけれども、「生徒への理解を深める」ということを加えていただいて本当にありがたいと思いました。やはりこどもの理解に努めて、関係を築いて、状況に応じた支援につなげるというところが大切なのだなと思ったところです。

それから、防災のところ、30ページですけれども、仙台版防災教育について、コメントには、「震災の被災地として、さらに踏み込んだ表現を」ということがありましたが、取組方針に、「地域の一員としての共助の力を育む」ということであるとか、「学校教育全体で態度を育む」ということが書かれていまして、震災を経験した仙台の防災教育は生涯にわたって学び続けるものであってほしいという願いを込められたものにしていただいたのではないかなと私は感じました。ありがとうございました。

○議長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。お願いします。

○堤委員 気がついた点ということで、資料編の62ページの用語解説の在外教育施設についてなんですけれども、ここに書いてあるとおりになんですが、これだと一般の方が見るとイメージしにくいので、括弧、日本人学校・補習校、補習授業校かな、正式名称、等となってくるんです。私立の学校なんかも含まれていますので、そうすると、日本人学校・補習授業校というと、少し在外教育施設というのがどういうものかというのが具体的にイメージできるのではないかなと思いますので、左側につけたほうがいいのか、右側のサイドのところにつけ足したほうがいいのかというところで、意見を述べさせていただきました。以上です。

○議長 ありがとうございます。

こちらは、正式な名称を確認した上で、最後に加えた形のほうがいいですかね。表に出しているのが在外教育施設ということですので、説明文の最後に文言を付け加えるという形の修正をする方向でということはいかがでしょうか。

○事務局（参事） 修正を検討させていただきたいと思います。

○議長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。お願いいたします。

○幾世橋委員 パブリックコメントと教育委員会としての考え方と訂正案を、読ませていただきました。

1か月の期間に126件の意見は大変貴重なもので、改めて気がつくことや視点の違うこと、違う考え方を知ることができ、本当に貴重な意見だったと思います。

また、教育委員会としても、一つ一つ丁寧に対応しており、全て教育構想に沿って前向きな考え方であることにほっとしました。こどもの権利を守ることを中心に、地域と共に歩む学校づくり等の意見は、これから2030年を期限に持つSDGsに関わりを持つことや、AIにおけるネット環境の今後の大きく変化していくであろうこの5年間に大

変重い意味を持つものではないかと思えます。

教育構想2026は、仙台市として、教育に携わる者として何が大事で守らなきゃいけないものか、誰のための教育構想なのか、分かりやすく明記されているような気がします。このパブリックコメントには不登校やマイノリティーに関しての意見が多く出ており、その中で、学びの多様化に対する教育委員会の細やかな対応を今まで知らずにいたことがたくさんあって、たくさん学ばせていただきました。

ろりぼっぷの存在は知っていたんですが、月々の学費や、交通費や給食費がかかるのか、交通費には補助が出ていることとか、当事者でないと知らないこともみんな書いてあるので、本当に何かすごい貴重な勉強になるコメントだったなというふうに思いました。今年度、ここで勉強させていただいた点は、広い視点で物を見ることができる大人として多くの人に伝えていければいいなと思えます。ありがとうございました。

○議長 ありがとうございます。

では、ほかいかがでしょうか。よろしいですか。

—質問・意見なし—

先ほどもお話ありましたけれども、パブリックコメントは、前向きな、非常に建設的なご意見をたくさんいただけたのかなと思っています。一方で、窮状ももっと深く知っていただきたいというようなご意見もあったかと思えますけれども、全体的に見て、基本的には、もっと前向きに、建設的にこうやってほしいというご意見が出ていて、それに基づいて今回修正をしたという形になっているかと私としては理解しております。

先ほどいただきました文言の修正につきましては、事務局でも確認していただいて、私と連絡をしながら調整をして、提供していきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

—異議なし—

それでは、そのような形で進めさせていただきたいと思えます。どうもありがとうございます。

○議長 今まで最終案の策定に向けて様々なお立場からたくさんのご意見をいただきました。本当にありがとうございました。この後、教育長に報告をするということになるわけですが、先ほど、私が申し上げましたとおり、本日の検討委員会が、検討結果を報告する前の最後の会議となりますので、いただいたご意見に対する修正点などは先ほど申し上げたとおりの形で進めさせていただきたいと思えます。それを2月2日の月曜日に、教育長に検討結果として報告させていただきたいと考えてございます。こちらについては、いかがでしょうか。

—異議なし—

では、そのように進めさせていただきます。

修正後の最終案につきましては、後日、委員の皆様にごデータで送付をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3. その他

○議長 それでは、非常に早いですが、以上をもちまして議事としてはこれで終了となります。

冒頭に申し上げましたとおり、最後の会議ですので、皆様から一言ずつご感想をいただければと思います。秋山先生からお願いいたします。

○秋山委員 本当に勉強になる会議で、毎回学びがありました。

特別支援教育という主に視点でいろいろ考えさせていただいたところも多かったんですけども、特殊教育から特別支援教育へ名前が変わって、20年ぐらいなんですけれども、いわゆる特別支援学級とか特別支援学校という特別な場だけではなくて、もう全ての学びの場で特別支援教育を行うということで名前が変わったんですが、今回のいろんな議論や内容を見ていて、やっぱり世の中の、仙台市の学校も、全ての学びの場で特別支援教育ということを大事にしていくようになってきているんだなと強く感じたところ。

同じように特別支援に関わってきた人間は、どちらかというと障害理解とか障害のある子どもたちを中心としたその理解ということをよく話したり考えてきたんですけども、ここの会議の場を通じて、障害も含めた多様性を重視し、理解していこう、尊重していこうということが多く話に出ていて、そうだなと、何も障害に限ったことじゃないなという、様々な多様性を尊重して認めていくということが大事なんだなというふうに強く感じたところです。

そういう意味では、何か最近のニュースを見ていると、多様性というよりは、何か自分に損か得かみたいところで、いろんなところを大人のほうははかっているところもあるようなニュースをよく見たりもしますので、ぜひ仙台市の子どもたちが、自分の身の回りにいるいろいろな違いを認めて、共に学んでいくという力がこの教育構想を基にした教育展開の中で育っていくといいなということを強く願っております。本当に勉強になりました。ありがとうございました。

○遠藤委員 私は学校現場の現状であるとか課題を踏まえて、子どもたちの学びの充実、先生方の学校の働き方改革、環境整備について主にお話しさせていただきましたが、様々なお立場のご専門の委員の皆様のお話やご意見をお聞きしまして、より広い視野で仙台市の教育の方向性について学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

こうして検討を重ねてきたものが最終案となったわけですが、学校教育に係る方針については、杜の都の学校教育において取組事項が示されるのではないかと思います。改めて学校の役割を顧みながら教育活動に当たることを改めて大切に感じてやっていければと思ったところです。

これまで本当に事務局の皆様のご尽力に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ました。

○大曾根委員 私は、いわゆるPTAということで、保護者の立場から保護者の考え、お話しさせていただきありがとうございました。

今回は、いろんなパブリックコメントからも感じたことでもあるんですけども、やっぱり今保護者の不安とか、孤立とか、そういったところに深く刺さるコメントとか、共通して学校だけが学びの場ではなく、そして先生だけが子どもたちの教育に携わるといだけではなく、いろんな多様な背景、そして多様な人物に対していろんな方々が支援していく、そしていろんな場所があって子どもの安心と学びの継続を最優先に考えた支援ということを改めてつくれた喜びがあります。

また、いろんな、不登校であればその背景というのは多様であるということと、やっぱり社会全体で子どもを支える仕組みが必要であるということの共通認識と、これも基本理念にあった、まちが人を育むという学びの循環につながるものと改めて感じました。全ての子どもたちの学びの権利を守る基盤的な取組として捉えて、我々保護者も子どもと安心して切れ目のない支援体制を構築されることを期待します。

最後に、本会議に参加させていただきまして、仙台市の未来について皆様と共に真摯に議論できたことを心よりうれしく、また大変意義深く感じております。今後、家庭、学校、地域が連携しながら、仙台市の教育を共に支えていければ幸いだと思っております。本当にありがとうございました。

○嘉藤委員 皆さん、本当に大変お世話になりました。

私なりに、この1年を振り返って感想を申し上げたいと思います。

この1年、委員として議論に参加させていただく中で、教育とは、未来の社会を担う子どもたちが学びとともに人として成長していく過程を社会全体で支え続ける営みであると私は感じました。

私たちがここで交わしてきた議論の一つひとつはすぐに答えが出るものではありませんが、10年後、20年後の社会を担う子どもたちの姿を思い描きながら教育の在り方を考えるというこの時間は非常に意義深いものであったと感じております。

一方で、この委員会に関わる中で、現代社会を生きる子どもたちの置かれている環境の難しさについて深く考えさせられる場面も多くなりました。いじめや不登校といった課題は決して特別なものではなく、どこでも起こり得る、非常に身近で、そして深刻な問題です。価値観の多様化、情報過多の時代で人と人とのつながりが希薄になりがちな社会の中で、子どもたちが悩みや不安を抱えながら日々過ごしているという現実を、私たちは真摯に受け止めなければならないと感じました。

そうした中で、教育現場で子どもたちと向き合い続けておられる先生方の存在がどれほど大きな支えとなっているか、そして支えておられる先生方がどれほど大変な思いをされているかということを知る機会ともなりました。改めて先生方に心からの敬意と感謝の気持ちを抱いた次第です。

私は皆様とちょっと違う立場でこの委員会に参加させていただきましたが、教育に関わる議論を通じて、特に教育は学校だけで完結するものではなく、地域全体で支え関わ

っていくものであるという思いを一層強く抱きました。こどもたちは、いずれ地域の一員となり、社会を支えていく存在へと成長していきます。その土台をつくる教育に地域の大人たちが無関心であってはならないということをこの1年を通じて学びました。

先日、経営者のある会合で、これからの仙台、よりよい地域社会をつくるために何が必要かということ意見を述べる場面がありました。そのときに私は、この1年を通して、今申し上げたようなことを申し上げました。その中で、やはり地域社会において、その地域の一員としてできること、これを自分事として捉えて、何かできることを私なりに考えてまいりたいなと思いました。

最後になりますが、本日ここでまとめられたこの教育構想が、こどもたちにとっての希望となって、そして先生たちにとっての支えとなって、そして地域全体で未来を育む指針となることを心より願っております。本当にこのような機会を頂戴いたしまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

○幾世橋委員 ありがとうございました。

大変お世話になり、今回2026ということで始まったこの検討委員会ですけれども、前の2021年はどうだったのかなとか、いろいろ考えながらこの会に参加させていただきました。2021年からコロナが始まり、本当に大変だったなという思いがいっぱいありました。でも、私たち大人が不安に思っていると、こどもたちもみんな不安になってしまうような気がするので、私たちが不安に思っちゃいけないので、それを思う柱として、この教育構想があると信じていけばいいんじゃないかなと。こんなに皆さんでいろいろ考えて、いろいろ意見を出し合っつくり上げたものなのであれば大丈夫じゃないかなと感じています。

私に関わってきた生涯学習というの、戦後で大変なときに声を上げました。社会学級というのは76年間の歴史があり、全然平穩で過ごしてきたわけではなく、その都度たくさん意見を皆さんに出していただいて、変化をしつつ、話を重ね、それで活動してきました。それで、各学校において、各校長先生が社会学級主事でいらっしゃるということもあって、その助けもあり、地域のコミュニティーの主軸になり、こどもと関わり、学んできたことを還元していくということを真に思いながら活動してきました。

その学びの還元ということが今すごく大事なことなんだなと改めて思うことができるのは、またこの会に参加して教育構想を考える場にいられたことじゃないかなと考えています。本当大変勉強させていただきました。これをこれからまたいろんな糧にして頑張っていきたいと思いますので、よろしく願います。どうもありがとうございました。

○越坂委員 1年間、ありがとうございました。

今高校に属しているので、いわゆる今の教育構想に基づいた教育をしているということになるんですが、学校の中にいると、どうしても日々のいろいろな小さなことに振り回されて自分の視野が狭くなっていたなということに、この場に来ると気づかされる、そんな1年だったような気がしています。

いろいろな立場の方が仙台市の教育やこれからの仙台市について意見を交わすという

のは本当に貴重な機会だったなと改めて思っておりますし、同じ文章を見ても、立場が変わると、視点も変わって様々な捉えがあるんだなということ、自分が気づかないところに気づかされてということ、本当にそういった機会をいただいたことが私にとってとても深い学びになりました。こういった貴重な機会をいただきまして本当に感謝申し上げます。この貴重な機会を今後の指導に生かしていきたい、今後の自分の仕事に生かしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

○菅澤委員 菅澤です。どうもありがとうございました。

私は、パブリックコメントが様々な立場の人から出ているので、すごく皆さんの関心が高いんだなと思いました。

先ほど遠藤委員からもあったように、基本方針1に関しての意見が断トツだったので、数が多いということは、現状への不満とか、要望とか、訴えなどの表れなのかなと感じておりました。

不登校の子を持つ保護者の意見とか、いじめに関するご意見の多さに、一人一人が安心して学べる学校では今はないのかなということで、自分で振り返っているところでした。多様性を尊重するならば、教育機会の格差を生じないように環境を整えなければならないというのが、私がパブリックコメントを読んで一番強く思ったことでした。

ろりぽっぷ小学校のことも随分ご意見あったので、やっぱり時代はそういう学校を必要としているのかなと思いました。うちの小学校に入ってくるこどもたちをここ数年見ていると、やっぱりすごく多様化というか、集団になじまない子とか、特性がある子とか、障害だけではなくていろんな不安とか抱えている、本当にまさに多様なこどもたちが入ってきて、今までの画一的な教室とか授業とかいう枠にやっぱりこれは入れられないなと思うような子たちがたくさんいるんです。なので、先生たちには、それぞれ学びのスタイルがあるんだということで、そこに無理くり入れようとするとうちもはみ出してしまうので、もっと大らかに構えて、その子に合ったようなスタイルを探していこうというようなスタンスで近年は取り組んでいるんですけども、私たちも、そういったこどもたちが困らないような授業デザインを考えたり、環境を整えたりということがすごく必要なんだなと思いました。学校でも精一杯努力していきたいと思えます。

いろいろ読んでいてちょっと苦しくなるというか、これもやらなくちゃ、これもやらなくちゃと思うんですけども、この教育構想の中には教職員のウェルビーイングというところもきちっと入れていただいているので、私たちの職場環境もいいものにしていきながら、こどもたちのために力を尽くしていきたいなと改めて思いました。普段は私は小学校という枠の中しか見ていられなかったんですけども、ここに来ていろんな立場の方とお話をすることによって、もっと視野を広げたり、先を見据えたりということで、とても勉強することができました。大変よい機会をいただいて本当にうれしいです。どうもありがとうございました。

○菅原委員 菅原です。

本当に大変お世話になりました。皆さんおっしゃっていますけれども、この検討会議の参加で、本当にいろんな委員の皆さんのお考えを知ることができて、私自身も大変勉強

になりました。本当にありがとうございます。

パブリックコメントも本当にたくさん寄せられていて、これももう皆さんおっしゃっていますけれども、読ませていただくと、こどもの権利を大切にするというあたりとか、そこが背景にあるんでしょうけれども、いじめとか不登校に関連するコメントがものすごく多くて、やっぱりそういうところなんだなということを改めて感じたところでした。

自分の関心だったデジタルとか情報関連の意見は少なかったんですけども、少ない中で、やっぱり考え方はいろいろだなと思ったんですけども、もうもはやデジタルの環境が前提なんで、それを前提にやはりこどもの権利保障とか、その環境の中で、こどもたちが自分の権利を学ぶということを大切にしなければいけないんじゃないかという意見があったり、またちょっと違う角度でというか、逆なんですかね、やっぱりデジタル機器への接触を制限しなければいけないんじゃないかみたいな意見があって、これなんか本当に簡単に答えが出ない、難しい問題なんだなと思っているんですが、ちょうど昨日大学院の授業で、大学院に来ている現職の先生方と情報モラルの指導について意見交換したんですね。どの先生もやっぱり情報モラルという観点での指導にすごく困難を感じているというお話をいただいて、やっぱり大事なのはルールづくりだけれども、そのルールづくりも難しいと。特に、何かを制限しようと思っても、もうとてもそれではうまくいかないみたいな話があって、結局、自分で自分自身をコントロールできるようにならないともうどうにもならないなという話になったんです。だから、学びそのものもそうですよね。自律的に学ぶとか自己コントロールするとかというところ、そこがすごく大事なんだなという話になったんですけども、そう落ち着いたときに思ったのが、こどもにそういうことを求めるんだけど、大人はそれができているのかというのを、これ考えなきゃいけないんじゃないのかなと。この教育構想の検討の中で、すごくこどもたちにこういうふうに育てほしい、こういう力をつけてほしいということをたくさん話してきたんですけども、それを自分たち大人ってちゃんと身につけていて、後ろ姿でこどもたちにそれを伝えるとか教えるということができているのかというのを改めて考えなきゃいけない。「人がまちをつくり、まちが人を育む」ってすごい素敵なフレーズだなと思って、ずっとこの会で思っていたんですけども、そうなるためには、やっぱりまずこのまちに住む大人も、ここで求めているような学び方とか考え方みたいなのを身につけて、背中でこどもたちに教えていくということが大事になるんじゃないのかなということを改めてこの会に参加しながら考えたところでした。本当に貴重な機会をありがとうございました。

○堤委員 1年間、どうもありがとうございました。

改めてこの最終案を読ませていただきまして、教育をめぐる社会環境の変化ということ、ここを前提として、これからの仙台市の教育ということで出来上がってきたと。非常にバランスよく、しかも仙台らしさがすごく出ていて、自画自賛ではないんですけども、やっぱり様々なお立場の皆様の意見が入ったりとか、それから、あとは上手にまとめていただきました。本当に野口委員長、それから本岡副委員長、それから事務局の方々の本当に英知の結集の成果だと思って読ませていただきました。

私も学校現場にいましたので、新しいものを取り入れる大変さというのはすごく分か

るんですけれども、例えば、具体的には国際的な視点に立った教育の推進とか、ICTとか、なかなかやっぱり日本の教育って石橋をたたいても渡らない部分があるというか、いつも文科省のほうからも、そしてまた仙台市のこの最初のほうにもありますけれども、予測不能な、そして非常に変化の激しい世界で、私たちが思っている以上に、本当に世界は今そうなんじゃないかなと、最初にもお話ししたんですけれども、我々どうしても欧米に目が行きがちですが、特に東南アジアの進み方というのは、もう物すごいぐらいに早いんじゃないかなと感じていたものですから、やっぱりそういう部分も取り入れながら、こういう教育構想が出来上がっていったというのは、非常に希望というかそういうものも感じられると個人的には思っていました。

ただ、これが出来上がりました、さあ学校、お願いしますというのは、これはそこからかなというところで、やはり学校だけが全てを負うのではなくて、これをつくり上げたからには、自分としても個人的に何かしらお手伝いできる部分のところで、本当に共同参画していかないといけないなということも併せて感じた時間でもありました。どういふところまでできるかというのは、これから自分なりに具体的に考えていこうとは思っていますけれども、そういう点も含めまして、やっぱり仙台市で学んでいるこどもたちに、ここで考えたことをベースとして、いい教育を受けて、そして将来を担っていける素晴らしい人たちになってほしいなということも改めて感じた時間でもありました。どうも1年間ありがとうございました。

○松田委員 どうも本当にお世話になりました。ありがとうございます。

今回は、おかげさまで各分野のご専門の委員の皆様方と一緒に多様なご意見をいただく中で、俯瞰して見るというんですか、そういう機会をいただいたというのは、本当にありがたいことだったと思います。ある物事に対して、一歩引いて全体を見ようというのは、やっぱり教育に携わる先生方、地域の皆様方もですし、あと学ぶ皆さんも、みんなやっぱりあるところでこれを改めて見ることを通して、必要なのかなと思ったところなんです。

1つ、今日、この基本理念ですけれども、先ほどからも皆様方からありましたところで改めてふっと感じることもありまして、学生に社会教育主事関係の授業がありまして、今回課題で、身近なところの施設に行き、その講座体験を自分も学習者として参加しろという課題を出したら、多くの学生は仙台市に住んでいますので、仙台市の市民センターのホームページって本当に充実しているんですよ。それを基に探して、各自土日とか平日の空いているときとか行ったときの感想のレポートを見たら、ご年配の方々しかいらっしやらないところで若い自分が1人ぽつんと入って、最初恥ずかしかったんですけども、結論として、今まで学ぶということは教室の中で、文字や教科書などを通して知識を学ぼうとずっとやってきたんですけども、人から学ぶと。生きていること自体が学び得ることなんだとか、まちの中で暮らしていること全体が学びなんだというようなニュアンスを書いている学生も非常に多くて、この基本理念のこれというのは、そういうことも伝わっていくのかなと思ひまして、教室だけに閉じ込めなくて、やっぱり学都仙台ですから、こんなに多様な施設がありますから、本当にいろいろ活用させていただいて、こういう基本理念が実感として味わえるようなことになれば、本当にいいのか

など改めて思ったところです。

あと、議事が終わったところで、最後に大変申し訳ないですけども、用語解説のところに、一つ一つ見ていると、本市独自の取組とか、結構たくさんあるんですね。まさにこれも仙台の特色かなと思ひまして、本市独自のところと、あと一般の用語と、文字の書体、字体だとかを変えたりすると、もっと仙台らしさが出てくるのかなと思ったところでした。

どうも本当にありがとうございました。

○三浦委員 1年間、お世話になりました。ありがとうございました。

今皆様からご意見あったとおりで思っとうなずきながら聞かせていただきました。

パブリックコメントを拝見して、やはり不登校、いじめ、それから発達障害等、この状況で悩んでいらっしゃる保護者方々が非常に多いんだなということを感じましたし、そのために、非常に仙台市の教育に対する期待感の大きさがとても大きいんだなと感じました。

29ページの121番のご意見のところに、「多岐にわたっての方針が示されているのは読み取れるんだけど、実際に市民（特に学校現場）が、これらすべてを意識し取り組むことができるのかといった視点が読み取れませんでした」と書かれていて、とても厳しい辛辣な意見ではあると思うんですけども、逆に言うと、ここで立てられた方針を意識して取り組んでほしいという、すごい期待の表れなんだなと受け止めることができました。

私も教員養成に携わっていて、やはりこれからの先生というのは相当な力がないと、なかなか継続して勤務していくとか、それからより深い実践とかというところに結びつくことが非常に難しい時代になっているんだなと感じています。これは、私なんか仙台市でお世話になったんですけども、やっぱりそのとき以上のいろんな技術であったり、それから洞察力であったり、いろんなものが、実践力であったり、そういうものが求められる時代になっておりますので、大学としても、本当に学生のことをしっかり育てていきたいと肝に銘じました。

それから、今後5年間でどのように実践してきたかということが恐らく次の新しいプランのところに話題となって、こういう形で実践しましたよということが出てくると、とてもいいのかなと思います。ぜひ次のプランへ向けて、よりよい実践、それに伴ってのいろんな活動がなされていくことを心から期待しております。本当にありがとうございました。

○若島委員 1年間、ありがとうございました。

もう知らないことばかりで、用語解説もつけていただいて、もしかしたら一番喜んでくれるのかもしれない。

パブリックコメントを見ると、いろいろ、大体要望とかだと思ひますけれども、やはり結構肯定的に評価してくれている、そういうコメントとかあるんだなと思って、成功的というか、すごくいいなと思ひました。

あと、やはりすごい膨大ですね。いろいろ考えなければいけないことが膨大で、それ

にはいろいろ分からないことが多過ぎて、ほぼお役に立てず、学ばせていただいたという状態だと思います。

今回のこの構想で、これ29ページにある「自分にはよいところがあると思いますか」という、こどもたちの割合が増えていけばいいなと思います。

ちなみにこれ、令和6年のところでぐっと増えているのって、これ何かあったんですか。

○事務局（次長兼学校教育推進部長） 明確に、数値的にぐっと増えた正確な理由というのは、正直なところ分からないところもあるんですが、要因として考えられる可能性でお話をしますと、1つは、やはり令和2年から令和5年度までのこの期間というのは、まさにコロナ禍において、非常に学校教育の教育活動内容、学習内容が制限されて、こどもたち自身も、先生たち自身も、非常に、やれることが限られた中で、いかに学校教育を維持していくかというところに苦心してきた時期であったと。そういう中であって、令和5年度後半から徐々に様々な教育活動の規制が緩くなって、6年度からはもうほぼ以前の状態になっているんなことが取組として復活していった中における、こどもたちのそういった学校における活動の受け止めであるとか、あとはやはり調査の内容に関しても、質問事項そのものは年度によって多少その質問の仕方も含めて変更しているところもございますので、そういったところの影響があるのではないかなと考えております。

○若島委員 ありがとうございます。今回ここで考えたような構想が、こどもたちにこういう具体的な形で効果が出たり、やれるといいなと思います。私からは大体そんなところです。ありがとうございました。

○本図副委員長 皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

事務局の皆様への感謝と、委員の皆様一人一人への感謝と、各委員の皆様もおっしゃっておられましたが、右に同じでございます。本当にありがとうございました。

3つ申し上げたいことがございまして、1つは、本当に皆様の英知を結集して、事務局のご努力と、いいものになったなと思うんですが、包括的に市民に向けての発信ということだと思いますので、ぜひ、先ほど委員からもいろいろご意見ありましたが、先生方にも、そしてこどもたちにも、この基本方針5つが分かるように、またこどもたちに分かるレベルでいろいろご発信もしていただけたらなと思います。もちろんこれから教員になる学生たちには、これを読み込んで、学生たちでしたらこれを理解できると思うんですけども、ぜひこどもたちにも、そして時間がない先生方にも、こういう方針で頑張っていこうということが伝わるように、また、ご発信をお願いしたいです。

2点目は、基本方針の1が大分もめましたけれども、みんなの意見を事務局で酌んでくださって、一人ひとりが安心して学べる学校教育という、この「安心」というのは本当にいい言葉だなと思います。「一人ひとりが」もですけども。これは2021年の基本方針の1を改めて拝見すると、「夢や希望を持って挑戦」という、大人からこどもたちに頑張ろうというか、そういう感じがあるんですが、でも私たちのこの2026年の議論は、心

理的安全があつてこそ挑戦だよねという、1つやっぱりバージョンアップをして、社会も優しくなり、でもその上で、こどもたちにやっぱり挑戦して行ってほしいと。そこは多分変わってなくて、その上では、本当に土台を大きくして、こどもたちにも投げかけている一人ひとりの安心だと思いますので、そこがこどもたちにも社会にも理解していただけるといいなと思います。

基本方針1が安心だとすると、基本方針5のところは安全でございまして、ここはぜひ引き続き事務局の皆様、安全という点では、特別教室の空調とか、体育館の空調とか、そういった防災対応も含めてお願いしたところですが、今度、給食費もということですけども、大変お金が、もう莫大なお金がかかるところ、でも本当にいろんな施設の老朽化が目立っておりまして、安全、お金がかかる安全というところも、引き続きぜひお願いできればと存じます。

最後3点目は、菅澤先生からも言及がありましたけれども、ぜひ教師のウェルビーイングも、私のような立場からはぜひ引き続き合い言葉に、教師のウェルビーイングはこどものウェルビーイングと一体的ですので、ぜひ様々な形で、この2026を進めていけば、教師のウェルビーイングとこどものウェルビーイングの一体的な推進となると思いますので、お願いしたいです。

社会が大きく変わっているというところは、本当に皆様がお感じになられるところで、宮教の学生ですら、チャッピーがいなくてももう生きていけないとかと言う学生がおりました。だからって事務局の皆さんはうちの学生を落とさないでほしいですけども、もう私たちのほうの授業で、黙って見ていると必ずAIに聞いてレポート書いてきますので、2つのAIを比べて書いてこいというふうにして、こちらもそういうふうしております。大きくいろんなこと変わってきていますので、ぜひそういう中ですが、この2026を引き続き皆様と大事なバイブルとしていながら皆様と進んでいけたらと思います。

本当にありがとうございました。

○議長 どうもありがとうございます。

最後に私のほうからも一言言わせていただきますけれども、本当にこの1年間、委員の皆様、事務局の皆様、どうもありがとうございました。お疲れさまでございました。皆様からいろいろ今お話いただきましたけれども、本当に誇れるものができたのかなと思っております。

今の本図先生の話ともちょっと重なる部分があるのかもしれないですが、私がずっと思っているというか、すごく大事にしていることというか、要は、こどもはやっぱり笑ってなくちゃいけないと私はずっと思っているんです。そのために何ができるかということを考えていきたいとずっと思ってきました。こどもが笑っているためには、こどもに関わる大人も原則やっぱり笑ってなくちゃいけない。要は、余裕がないと、なかなかこどもに合ったこととか、いろんな取組できないよなと思っております。

実は先日、遠藤先生の学校にお伺いして、余裕って大事ですよねという話をしていたところなんです、やっぱり関わる側が余裕を持つということは物すごく大事なことで、そのために、みんなが力を合わせて行って、お互いが助け合っていくからそういう余裕も生まれてくるという、そういったこともあるのかなと思っております。だからこそ、今

回、みんなが子どもたちに関わる、みんながいろんな形で関わる中で、子どもたちを笑顔にしていくということが考えられたらいいのかなと思っています。今回、そういう形の教育構想ができたのかなと個人的には思っているところでございます。

それから、これは今後に向けてということになるかと思うんですけども、先ほどご報告いただいた修正のところ、パブリックコメントのところ、子どもを人権を持つ主体としてというような修正の話があったかと思います。この検討委員会の中でもちょっと議論ありましたが、子どもからの意見聴取ということですね。そのあたり、今回もいろいろ工夫して行っていただきましたけれども、次回に向けて、やっぱり子どもたちからどうやって意見を聴取していくのか、吸い上げていくのかというやり方、適切なやり方、子どものまさに権利を生かすような、権利を念頭に置いた、そういう意見聴取の仕方についてぜひ工夫していただければなと思います。

あとは、これも繰り返しお話ししていることですが、学習指導要領等が変わっていく中で、それに向けて、また具体的な取組等々もその都度変わっていくこともあり得るかと思います。ただ、そういったことも念頭に置いた形で今回作り上げてきておりますので、いろんなことが少し変わったからといって大幅に変える必要はないのかもしれないんですけども、これからやっぱり5年間の中でいろいろ変わっていくこともあるかと思います。その都度その都度、よりよい形で対応していけるように、それに向けて先生方も、これに関わる皆さんも力を蓄えていけるような形になるといいなと思っております。これからこれを実施していくことになるわけで、事務局の皆様、あるいは現場の先生方、それから我々一人一人が頑張らなくてははいけません。ぜひ一緒にやっていきたいなと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。

それから、この会議で私が特にずっと大事にしてきたのは何かというと、とにかく皆さんが話しやすいような雰囲気をつくることです。それがうまくいったかどうか…、うまくいったとすれば幸いです。本当にどうもありがとうございました。以上でございます。

それでは、以上で、私のほうの進行は終了といたしたいと思います。進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉会